

福岡市ホームレス者自立支援に向けた歯科からの取り組み 第2報 事例研究, 自立支援のための歯科治療

○西本美恵子¹⁾, 岩井 梢¹⁾, 小林聖司²⁾, 守山正樹³⁾

¹⁾NPO 法人ウェルビーイング, ²⁾筑紫口歯科クリニック, ³⁾福岡大学公衆衛生学教室

要約：ホームレス者への歯科治療が生活やQOLへ与える影響を調べることを目的に事例研究を行った。59歳男性を対象に歯科治療を行ったところ、well-being度や見かけ・発音・食べることの満足度が上がり、外出頻度や外出先が増えた。歯科治療が心理的にプラスの影響を与え、見かけや生活を改善し、自立支援の可能性があることが示唆された。
(索引用語：生活困窮者, ホームレス者, 歯科支援)

口腔衛生会誌 60 (4), 2010

目的：

第1報で報告した2007年から2009年の福岡市のホームレス者の調査では、補綴等の歯科治療が必要な者が多く見られたが、福岡市では痛みの除去のための緊急対応しか行っていない。この背景には、ホームレス者に対する補綴などの継続的な歯科治療の有効性が明らかとなっていないことがあると考えられる。そこで、今回、ホームレス者への歯科治療が生活やQOLへ与える影響を調べることを目的に事例研究を行った。

方法：

対象者は、ホームレス期間0.5ヶ月で生活保護申請中の59歳男性であった。口腔内の状況は欠損歯26本であった。生活保護が決まり、歯科治療の追跡調査を実施した。歯科治療(通院6回)中に、残存2歯は重度歯周病のため抜歯し、総義歯を作製した。2009年4月6日から5月15日の通院期間に6回の質問紙調査を実施した。調査項目は、全身の健康状態、気になる全身症状、well-being度(WHO-5精神的健康状態表)、噛める食品、1日の食事内容、外出の頻度・目的、歯科治療への安心感、見かけの満足度、発音の満足度、食べることの満足度、自由記述とした。

結果：

表1では、すべての項目で得点が上昇していた。治療中の歯科治療への安心感は、平均9.5点(10点満点)と非常に高かった。また、噛める食品は、治療前は「とうふ、おかゆ、

プリン]のみだったが、義歯装着後は「ごはん、マグロ刺身、煮魚」も噛めると回答していた。

生活状況は、外出回数が「週3-4回」から「週5回以上」に増え、外出先も治療前は「公園に散歩、買い物に行く」のみであったが、義歯印象前から「ハローワークに求職」が加わるようになった。義歯装着後「口の見栄えがよくなったが、入れ歯に馴染むのは難しい」という記述とともに、「根気よく挑戦していきたい」と、前向きな言葉が見られた。

考察：

歯科治療の結果、口腔内状況が改善し、食生活や生活状況に変化がみられた。また、見かけや発音、食べることの満足度だけでなく、well-being度も向上することが確認され、歯科治療は心理的にもプラスの影響を与えることが示唆された。また、今回の対象者は生活保護を受け生活が安定したことも影響していると考えられるが、通院中に、外出回数が増加や就労への前向きな態度がみられ、歯科支援が自立支援につながる可能性が示唆され、ホームレス者に必要な歯科治療を行うことは、自立支援のために重要であると考えられた。

表1. 治療前・後のwell-being度と見かけ・発音・食べることの満足度

	治療前	治療後
well-being度 (20点満点)	10点	16点
見かけの満足度 (10点満点)	2点	10点
発音の満足度 (10点満点)	2点	7点
食べることの満足度 (10点満点)	2点	4点